



日本国際保健医療学会

第31回西日本地方会

Japan Association for International Health

現場の学知を世界の健康に

—伝えよう、深めよう、その学び—

プログラム・抄録集

日時：2013年3月2日(土)

会場：大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス／学術交流会館

主催：日本国際保健医療学会

共催：日本国際保健医療学会学生部会

大阪府立大学 創基130年事業

後援：大阪府・堺市

大会長挨拶

この度、第 31 回日本国際保健医療学会西日本地方会を担当することになり、大阪に多くの方に来ていただけますことを大変うれしく思います。また、「日本国際保健医療学会西日本地方会」は「関西国際保健医療サロン」として大阪で生まれしており、本大会の言わば「生地」において開催することで身の引き締まる思いと共に、伝統ある本学会西日本地方会をお世話させていただきますことを大変光栄に存じます。

本大会のテーマを、「現場の学知を世界の健康に 一伝えよう、深めよう、その学び-」としました。国内外での「現場」における研究成果や国際保健活動を「伝える」ことの重要性をここに強調したいと思い、このようなテーマとしました。どんなに素晴らしい研究や活動が行われていても、発表や報告なしでは何も評価もされませんし、この分野の発展には繋がりません。本大会が研究成果の発表のみならず、多くの皆さまの国内外での様々な活動における学びを共有し、相互にその学びを深める場になることを願っております。そして、「学会」ではありますが、学生も含めて堅苦しい雰囲気ではなく、気楽な交流の場となつていただくことを何より願っております。今回は一般演題が 43 題と近年の西日本地方会の中ではかなり多く、発表などを通じて研鑽をつまれとても有意義な地方会になることを大いに期待しております。

本大会の基調講演では国立国際医療研究センターの仲佐保先生より、「国際保健の現場で悩むこと、考えること、そして決断すること」をお話いただきます。様々な立場での現場経験の豊富な仲佐先生のご講演は現場の重要性が伝わる説得力のあるご講演となるかと思ひます。

シンポジウムでは「世界における妊産婦の健康を学ぶ:MDG5 に焦点を当てて」をテーマに、妊産婦の健康についていろいろな形で関わってきた演者の皆さまよりご講演をいただき、さらに質疑応答により理解と深めていきたいと思ひます。「世界における妊産婦の健康」は様々な場面で議論となりますが、今回のシンポジウムにより国際保健医療学分野の一つとしての「世界における妊産婦の健康」を総論的にも各論的にも学ぶ貴重な機会になると確信しております。学生はもちろん、将来母子保健に関連した活動を考えている方々、さらにはベテランの方々の参加をお待ちしております。

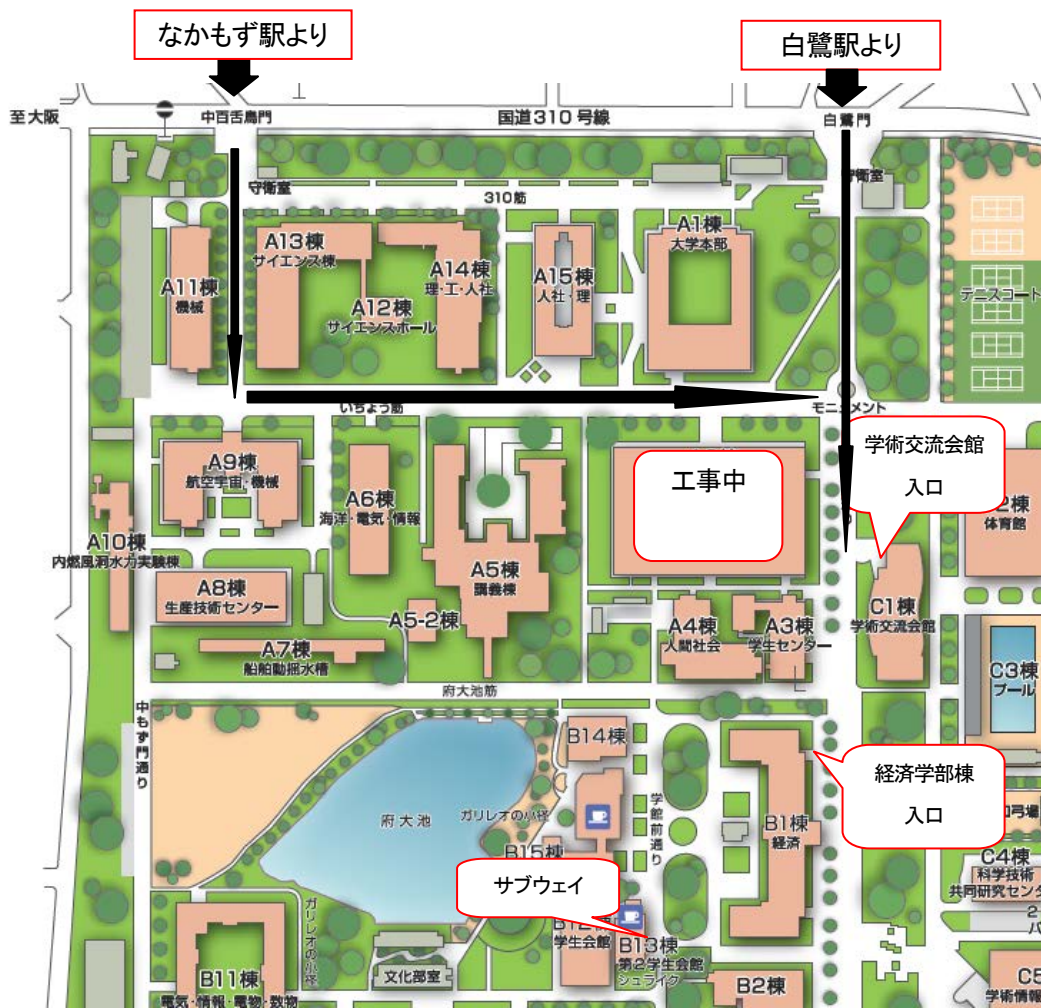
また、今回は新たな企画として、国際緊急援助活動セミナー -NGO から自衛隊まで-を企画しました。国際緊急援助活動に興味のある医療関係者や学生が多くいるにも関わらず、どのようにしたら良いのかはなかなか情報がありません。そこで、《国際緊急援助はどんな活動で、どうしたら参加できるのか?》を副題としまして、NGO や JICA、自衛隊での経験者からご講演をいただき、若い方々の「疑問」に答えられるようなセミナーになるかと思ひます。なお、このセミナーの企画には国際緊急援助隊 総合調整部会委員でもあります畑倫明先生（奈良県立医科大学高度救命救急センター講師）より全面的なご協力をいただきました。

このように本大会では、一般口演以外にも魅力あるイベントが多くあります。少しでも多くの皆さま方が本大会に参加され、さらには早春の大阪を楽しんでいただけますことを心より願っております。

平成 25 年 3 月

第 31 回日本国際保健医療学会西日本地方会大会長
大阪府立大学 教授 垣本 和宏

アクセスマップ



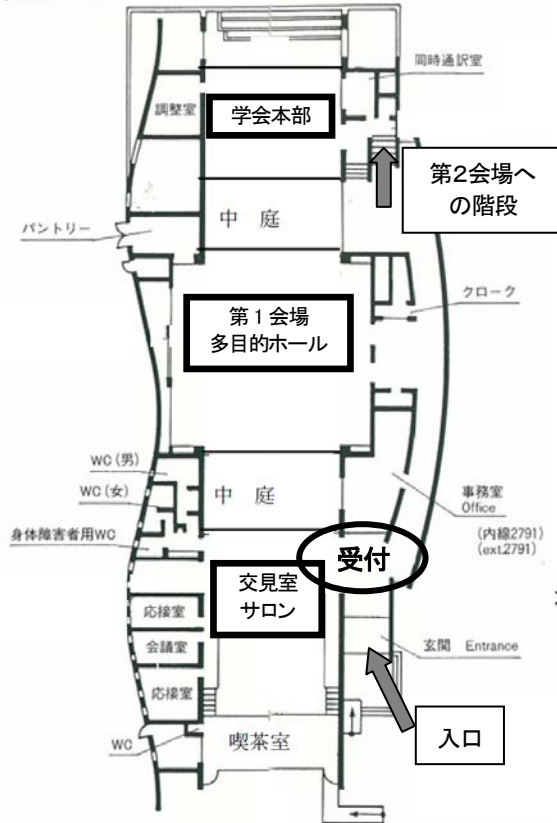
会場案内図

■ 学術交流会館

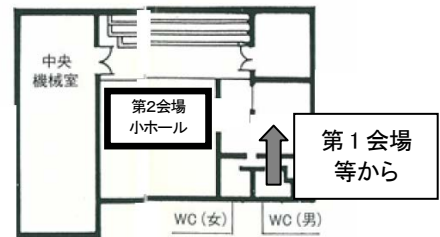
1階／第1会場(多目的ホール)・交見室(サロン)・学会本部(特別会議室)

地階／第2会場(小ホール)

1階平面図 1F



地階平面図 B1

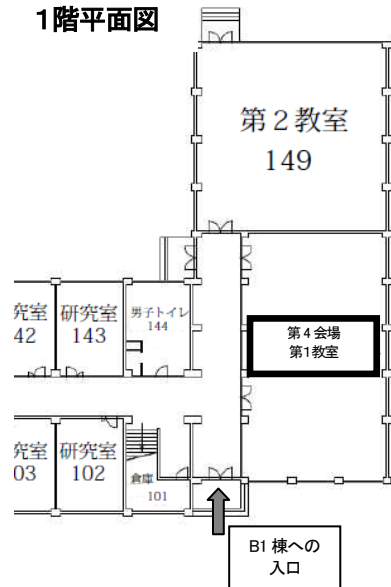


■ B1棟(経済学部棟)

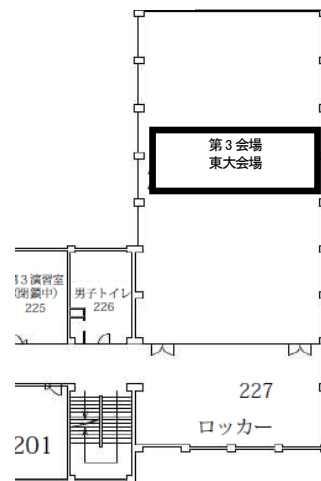
1階／第4会場(第1教室)

2階／第3会場(東大教室)

1階平面図



2階平面図



受付案内

会 場

大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス 学術交流会館他

日 時

2013年3月2日(土) 9:30～18:30

1. 受付場所・時間

場所:学術交流会館 1階ホール

時間:9:00～

2. 受付方法

受付で参加費をお支払いの上、抄録集とネームプレート(兼 領収書)をお受け取り下さい。

3. 参加費

一般: 1,500円 学生: 1,000円

お弁当代: 1,000円(希望者のみ承ります)

4. 抄録集

参加費には抄録集1冊分が含まれています。

追加希望の方には、1冊1,000円で当日販売いたします。

5. 懇親会

場 所:大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 学術交流会館サロン 18:30～

参加費:3,000円(受付時にお支払いください。)

お知らせ

皆さまへ

■会場内での飲食

学術交流会館は、交見室となっているサロン以外では飲食が禁止されていますので、ご協力をお願い申し上げます。

■昼食

希望者にはお弁当の予約を受け付けます。受付にてお申込みのうえ、引換券を受け取ってください。数に限りがあり、申込みには締め切り時間がありますので、ご注意ください。引換券をお持ちの方は正午頃に受付にて引換券と交換します。

なお、キャンパス内では「サブウェイ・野菜ラボ大阪府立大学店」が開店しておりますので、そちらの方もご利用いただけます。

■インターネットの利用

学術交流会館のサロン(交見室)で無線 LAN が使用できます。詳細は当日の掲示をご覧ください。

一般口演で発表される方へ

■発表形式

PC プレゼンテーションによる発表のみとなります。

PC (Windows)は事務局で用意しますので、発表データを USB フラッシュメモリに保存してご持参ください。

動画については、トラブルが起こった際に事務局では対応できないため、使用はできるだけ避けていただくようお願いいたします。発表データに動画を使用されている場合、または Macintosh 作成のファイルについてはご自身の PC をご持参ください。なお、会場スピーカーに音声は流せません。

■発表時間(時間厳守でお願いします)

一般演題では発表 7 分、質疑応答 3 分です。

■データの提出

演者は口演のセッションの開始 30 分前までに「スライド受付」にて発表データの試写を行い、データをご提出ください。「スライド受付」の場所は当日、ご自身でご確認ください。

■発表

発表 10 分前までに講演会場にお越しください。

前の演者が登壇されましたら次演者席にご着席ください。

発表はご自身で備え付けのマウスおよびキーボードで演者自身の操作で進めてください。

発表時間の終了 1 分前に予鈴が 1 回、終了時に 2 回鳴ります。

進行は座長の指示に従ってください。

PC をお持込みの方は、発表終了後、速やかにお持ち込みの PC をお引取りください。

■発表用データの作成方法

本会での発表可能なデータ形式は Windows 版 Power Point2003、2007、2010 です。

フォントは OS (Windows 7) に標準装備されているものをお使いください。

(MS 明朝、MS ゴシック、MS P 明朝、MS P ゴシック、Times New Roman、Century 等)

ファイル名には演題番号・筆頭演者名を入れてください。

学会側の PC に一時保存した発表データは学会終了後に責任をもって消去いたします。

会場別日程一覧

	学術交流会館		経済学部B1棟
	第1会場 多目的ホール	第2会場 小ホール	第3会場/第4会場 経済学部2階/1階
			交見室 サロン
9:00	受付開始		
9:20			第3会場 経済学部2階
9:30	開会の辞		
9:30	一般演題 1-1~4 母性保健 I (9:30-10:10) 座長: 大西真由美	一般演題 2-1~5 在日外国人・在留邦人等 (9:30-10:20) 座長: 椿 知恵	一般演題 3-1~5 小児保健・栄養 I (9:30-10:20) 座長: 神谷保彦
10:00	一般演題 1-5~7 母性保健 II (10:10-10:40)座長: 板東あけみ	一般演題 2-6~9 国際保健人材育成 I (10:20-11:00) 座長: 新地浩一	一般演題 3-6~9 小児保健・栄養 II (10:20-11:00) 座長: 水元 芳
10:30	一般演題 1-8~11 感染症対策・HIV I (10:40-11:20) 座長: 佐々木由理	一般演題 2-9~14 国際保健人材育成 II (11:00-11:50) 座長: 森口育子	一般演題 3-10~15 災害・環境・その他 (11:00-12:00) 座長: 谷村 晋
11:00	一般演題 1-12~14 感染症対策・HIV II (11:20-11:50)座長: 野崎威功真		
11:30	大会会長挨拶		
11:50			
12:00	休憩		第4会場 経済学部1階 世話人会 (12:05-12:35)
13:00			
13:05	副学長挨拶 基調講演 仲佐 保 (13:05-13:50) 座長: 垣本和宏		
14:00	休憩		第3会場 経済学部2階
14:00	シンポジウム 「世界における妊産婦の健康を学ぶ」 (14:00-15:40) 座長: 喜多悦子・垣本和宏		セミナー 「国際緊急援助セミナー」 (14:00-15:40) 座長: 畑倫明
15:00			
16:00	休憩		
17:00	学生会主催 西日本ニュースフォーラム2013 (16:00-18:20)		
18:00			
18:00	閉会の辞(18:20~)		
19:00			懇親会 (18:30~)

日本国際保健医療学会 第31回西日本地方会 プログラム

基調講演・シンポジウム・セミナー

【第1会場 多目的ホール】

基調講演

13:05～13:50

Keynote speech

「国際保健の現場で悩むこと、考えること、そして決断すること」－災害、病院医療、公衆衛生－

仲佐 保 (国立国際医療研究センター 国際医療協力局 国際派遣センター長)

座長:垣本 和宏(大阪府立大学)

シンポジウム 「世界における妊産婦の健康を学ぶ:MDG5に焦点を当てて」

14:00～15:40

Symposium “Learn about global maternal health issues: looking at MDG5”

座 長: 喜多 悦子(日本赤十字九州国際看護大学)、垣本 和宏 (大阪府立大学)

趣旨説明 垣本和宏 (大阪府立大学)

「MDG5の世界的な潮流」

Global trend of MDG 5

池上 清子 (日本大学大学院教授・前 UNFPA 東京事務所長)

「妊産婦の健康の重要性と緊急性」

Maternal Health: A matter of significance and great urgency

中村 安秀 (大阪大学大学院教授)

「JICAにおける妊産婦の健康への取組み」

JICA's Strategy and Operation for Maternal Health

渡辺 学 (国際協力機構 人間開発部次長)

「妊産婦の健康に関する活動と研究」

Evidence-based practice in maternal health

大西 真由美 (長崎大学大学院教授)

質疑応答

Questions and answers

【第3会場 経済学部B1棟2階】

セミナー

14:00～15:40

国際緊急援助活動セミナー –NGOから自衛隊まで–

《国際緊急援助はどんな活動で、どうしたら参加できるのか?》

座長：畑 倫明（奈良県立医科大学高度救命救急センター・国際緊急援助隊 総合調整部会委員）

林 晴実 （看護師・NPO法人災害人道医療支援会HuMA登録隊員・JDR隊員）

橋爪慶人 （東大阪徳洲会病院院長・NPO法人TMAT理事）

畑中公輔 （防衛医科大学校病院救急部・元ハイチ派遣国際緊急医療援助隊治療隊長）

大友 仁 （JICA国際緊急援助隊事務局主任・国際緊急援助隊総合調整部会委員）

質疑応答

西日本地方会ユースフォーラム 2013

【第1会場 多目的ホール】

学生会主催 (共催:大阪府立大学 創基 130 年記念事業)

16:00～18:20

「西日本地方会ユースフォーラム2013」

グローバルヘルスにおける「健康」

～医療人類学の視点から～

講師:増田 研 (長崎大学大学院国際健康開発研究科 准教授)

◆プログラム◆

16:00～ 講演、質疑応答

17:00～ ワークショップ

18:20～ クロージング

18:30～ 懇親会

一般演題(口演)

【第1会場 多目的ホール】

一般演題「母性保健 I」 9:30～10:10 座長 大西真由美
(長崎大学大学院)

- 1-1 バングラデシュ農村部における産科瘻孔手術後のQOLに関する研究
Quality of Life among Women with Obstetric Fistula Repair in Rural Bangladesh
○井本敦子¹⁾、本田純久²⁾、松山章子¹⁾
¹長崎大学大学院国際健康開発研究科、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- 1-2 シエラレオネ国の農村部における分娩介助者の現状と課題
Present situation and challenges on birth attendants in rural area in Sierra Leone
○藤井千江美¹⁾、中村安秀¹⁾
¹大阪大学大学院人間科学研究科
- 1-3 近代医療と伝統医療に対する母親の健康希求行動 ～ネパールにおけるインタビュー調査～
Mothers' health seeking behaviors for modern medicine and traditional medicine
～An interview survey in DHADING district of NEPAL～
○上住純子
大阪大学人間科学研究科グローバル人間学専攻国際協力学博士前期課程
- 1-4 Discerning proper traditional beliefs and practices through mother class in Indonesia
○Narila Mutia Nasir^{1,2)}、Raihana Alkaff²⁾、Prof. Yasuhide Nakamura¹⁾
¹Graduate School of Human Sciences, Osaka University、²Faculty of Medicine and Health Sciences, Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta, Indonesia

一般演題「母性保健 II」 10:10～10:40 座長 板東あけみ
(ベトナムの子ども達を支援する会)

- 1-5 ホンジュラス国オランチョ県における「若者に優しいサービス」への取組みに関する報告
Situation assessment of Youth Friendly Services in Olancho, Honduras
○西原三佳¹⁾³⁾、阿保宏²⁾、Ernesto Torres Teran²⁾、大西真由美³⁾
¹特定非営利活動法人 HANDS、²システム科学コンサルタンツ株式会社、³長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
- 1-6 国際保健プロジェクトにおけるフィールド実験を用いたエンパワーメントの計測
Measuring empowerment by field experiments in international health projects
○神谷祐介¹⁾、青柳恵太郎²⁾
¹大阪大学、²東京大学/国際協力機構
- 1-7 The Effect of Antenatal Card or Maternal Child Health Handbook to Mothers' Knowledge and Practice on Pregnancy, Delivery and Child Health Care in Indonesia
Baequni¹⁾²⁾、Yasuhide Nakamura¹⁾、Fase Badriyah²⁾
¹Graduate School of Human Sciences, Osaka University, Japan²Medical and Health Sciences Faculty, Islamic State University Syarif Hidayatullah, Jakarta, Indonesia

一般演題「感染症対策・HIV I」

10:40～11:20

座長 佐々木由理

(名古屋市立大学大学院)

1-8 HIV 陽性者に対する一般人口の受容の状況に関する調査：人口保健調査（DHS）データの二次分析
Situation of attitude toward PLHIV; Secondary data analysis of DHS

野崎成功真¹⁾、遠藤ゆかり、垣本和宏^{1, 3)}

¹⁾国立国際医療研究センター 国際医療協力部、²⁾東京大学大学院 医学研究科 国際保健学教室、³⁾大阪府立大学 看護学部

1-9 エチオピア遠隔地における感染症対策の脅威～リファラルとサーベイランスの検証から～

Burden of infectious diseases in remote communities of the Amhara region, Ethiopia- findings and recommendations from referral and surveillance system

中野久美子¹⁾、中野 慶子²⁾、松林信幸³⁾

¹⁾NPO 法人 HANDS、²⁾大阪赤十字病院、³⁾三重県立志摩病院

1-10 ハイチにおける結核検診の企画

Tuberculosis project of the Hatian, by the Hatian, for the Hatian.

○大類隼人、片岡真由美、古賀順子、岩野仁香、中村由梨子、森田佳奈子、甲斐聡一朗

特定非営利活動法人 Future Code

1-11 国会会議録を用いたエイズに関する発言のテキストマイニング

Text mining of parliament record relating AIDS

○白澤基紀¹⁾、服部俊夫¹⁾

¹⁾東北大学災害科学国際研究所

一般演題「感染症対策・HIV II」

11:20～11:50

座長 野崎成功真

(国立国際医療研究センター)

1-12 WHO の国際データを用いた HIV 患者における cotrimoxazole の適切使用の状況分析

Situation on using cotrimoxazole for people living with HIV

江崎さゆり¹⁾、林知佳²⁾、鹿嶋小緒里³⁾、村上玄樹³⁾、烏帽子田彰³⁾

¹⁾広島大学 医学部医学科、²⁾WHO/HIV department、³⁾広島大学大学院医歯薬保健学研究院 公衆衛生学研究室

1-13 ザンビア農村部で抗レトロウイルス療法を開始した HIV 陽性者のセルフスティグマとうつ症状について

Self-stigma and depressive symptom among patients who initiated antiretroviral therapy in rural Zambia

○Yuri Sasaki¹⁾、Kazuhiro Kakimoto²⁾、Christopher Dube³⁾、Kenichi Komada⁴⁾、Shinsuke Miyano⁴⁾、Naoko Ishikawa⁴⁾、Kiyoshi Kita⁵⁾、Ichiro Kai⁵⁾

¹⁾Department of Infection Control and Prevention, Graduate School of Nursing, Nagoya City University、²⁾School of Nursing, Osaka Prefecture University、³⁾Mumbwa District Health Office, Mumbwa, Zambia、⁴⁾Department of International Medical Cooperation, National Center for Global Health and Medicine、⁵⁾Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

1-14 カンボジアで抗 HIV 薬療法を受けている女性におけるコンドームの交渉能力の関連要因

Predicting factors for the skills of condom negotiation among HIV positive women on Antiretroviral Therapy in Cambodia

○中家奈緒美¹⁾、Sovanna Tuon²⁾、野崎成功真³⁾、山口文月⁴⁾、佐々木由理⁵⁾、垣本和宏^{1,3)}

¹⁾大阪府立大学大学院看護学研究科、²⁾カンボジア国立母子保健センター、³⁾国立国際医療研究センター国際医療協力局、⁴⁾大阪市立大学大学院看護学研究科、⁵⁾名古屋市立大学大学院看護学研究科

【第2会場 小ホール】

一般演題「在日外国人・在留邦人等」 9:30～10:20 座長 椿 知恵
(大阪府立大学)

- 2-1 上海在留邦人のメンタルヘルスケアにおける中国伝統医学の可能性
Traditional Chinese Medicine in Mental Health Care for Japanese living in Shanghai
○小笠原理恵
大阪大学大学院人間科学研究科博士（前期）課程
- 2-2 ドメスティック・バイオレンスの外国人被害当事者支援 日本の支援者に対するサポート
Supporting the Supporters of Migrant Women Who are Survivors of Domestic Violence in Japan
○大山裕子
大阪大学大学院人間科学研究科
- 2-3 静岡県在住外国人の国籍別にみた緩和ケアに関する考え-質問紙調査より-
The difference of idea about palliative care classified by various nationalities of foreigners living in Shizuoka Prefecture - From questionnaire research
○前野真由美¹⁾ 前野竜太郎²⁾ 榎本信雄³⁾
¹静岡県立大学短期大学部看護学科、²聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部理学療法
学専攻、³えのもと循環器科・内科
- 2-4 朝鮮初級学校保護者による家庭での性に関する教育と学校性教育へのニーズ
Parental sex education and needs of sex education at school in the Korean elementary school in Japan
○椿知恵
大阪府立大学看護学部
- 2-5 経済連携協定に基づくインドネシア人看護師候補者と働く日本人看護師の意識
Japanese nurses' consciousness toward Indonesian nurses based on economic partnership agreement
○金川真理¹⁾、エルシードウィハブサリ²⁾、エニヌライニアグステイニ³⁾、植田みゆき⁴⁾、松尾博
哉¹⁾
¹神戸大学大学院保健学研究科、²ガジャマダ大学、³シアリフヒアヤトゥラステイトイスラミッ
ク大学、⁴社会医療法人愛仁会高槻病院

一般演題「国際保健人材育成 I」 10:20～11:00 座長 新地浩一
(佐賀大学)

- 2-6 名桜大学における看護学生のための海外研修プログラム構築の試みその1
-教員による現地視察の概要と課題-
Construction of the overseas training program for the nursing students in Meio University (No.1)
-The outline and subject of an on-the-spot inspection by teachers-
○横川裕美子¹⁾、広本充恵²⁾、仲本優子¹⁾、平上久美子¹⁾
¹名桜大学人間健康学部看護学科、²(認定)シェア＝国際保健協力市民の会
- 2-7 名桜大学における看護学生のための海外研修プログラムの試み その2
-事前研修の必要性和海外研修のマナー-
Construction of the overseas training program for the nursing students in Meio University
○仲本優子¹⁾、横川裕美子¹⁾、平上久美子¹⁾、広本充恵²⁾
¹公立大学法人名桜大学、²(認定)シェア＝国際保健協力市民の会

- 2-8 名桜大学における看護学生のための海外研修プログラム構築の試み その3
ーピアサポートグループの支援における学習の可能性ー
Construction of the overseas training program for the nursing students in Meio University No.3
○平上久美子¹⁾、横川裕美子¹⁾、仲本優子¹⁾、広本充恵²⁾
¹名桜大学人間健康学部看護学科、²(認定)シェア＝国際保健協力市民の会

- 2-9 ケニアから日本へ：国境をこえる地域保健強化の取り組み
From Kenya to Japan: a transnational perspective on strengthening community health care
○栗原智樹¹⁾、○小川勝洋¹⁾、高瀬洪生¹⁾
¹大阪大学医学部医学科

一般演題「国際保健人材育成 II」 11:00～11:50 座長 森口育子
(兵庫県立大学名誉教授)

- 2-10 カンボジアへのスタディツアーとその意義
The report of study tour in Cambodia
○安丸英理子¹⁾、福吉美里¹⁾、奥瑞穂¹⁾、松園梨代¹⁾、山田加奈子¹⁾、垣本和宏¹⁾
¹大阪府立大学

- 2-11 国際看護学の効果的な教育方法の検討
Effective teaching methods of international health nursing education
○山本あゆみ¹⁾、南嶋里佳¹⁾、新地浩一¹⁾
¹佐賀大学大学院医学系研究科国際保健看護学分野

- 2-12 日本赤十字九州国際看護大学 2012 年度海外研修報告第 6 報ータイ・ブータン王国ー
“International Health Care & Nursing II” Oversea Training Program in Kingdom of Bhutan 2012
○今岡建人 河原健人¹⁾、喜多悦子²⁾、時枝夏子³⁾
¹日本赤十字九州国際看護大学看護学部 3 年生、²日本赤十字九州国際看護大学学長、³日本赤十字九州国際看護大学大学院 2 年生

- 2-13 日本赤十字九州国際看護大学海外研修報告第 5 報ー卒業生・院生の立場で参加してー
Thinking about Happiness and Medical Care through this program
○時枝夏子¹⁾、喜多悦子²⁾、今岡建人 河原健人³⁾
¹日本赤十字九州国際看護大学大学院 2 年生、²日本赤十字九州国際看護大学学長、³日本赤十字九州国際看護大学看護学部 3 年生

- 2-14 日本赤十字九州国際看護大学海外研修報告第 4 報ー10 年の経過ー
The Impact of 10 Year's of the International Program
○喜多悦子¹⁾、今岡建人 河原健人²⁾、時枝夏子³⁾
¹日本赤十字九州国際看護大学学長、²日本赤十字九州国際看護大学看護学部 3 年生、³日本赤十字九州国際看護大学大学院 2 年生

【第3会場 経済学部B1棟2階】

一般演題「小児保健・栄養 I」

9:30～10:20

座長 神谷保彦

(長崎大学大学院)

3-1 First treatment-seeking behaviour for child illness in Mzimba South district, Malawi

○Hidenori Matsuo¹⁾, Michael Chirwa²⁾ and Sangwani Chunga³⁾

¹ Japan Overseas Cooperation Volunteers, Jenda Health Centre, Malawi. ² Vibangalala Health Centre, Mzimba South District Hospital, Malawi. ³ Embangweni Mission Hospital, Malawi.

3-2 ニジェールにおける生後7ヶ月以内の子どもに対する授乳行動の決定要因

Determinants of breastfeeding practice of infants younger than seven months in Niger

日達 真美¹⁾、本田 純久²⁾、神谷 保彦³⁾

¹長崎大学 国際健康開発研究科、²長崎大学大学院 医歯薬総合研究科、³長崎大学 国際健康開発研究科

3-3 カンボジア母子保健センターの新生児医療に関する分析

Neonatal Care at Cambodian National Maternal and Child Health Center,

野崎成功真¹⁾、細川真一²⁾、Sody Seang³⁾、松下竹次²⁾

¹国立国際医療研究センター 国際医療協力局、²国立国際医療研究センター 小児科、³Cambodia National Maternal and Child Health Center

3-4 乳幼児栄養改善プログラムを阻害する要因の探索的研究

-東ティモールの栄養担当者の認識に関する質的研究-

Exploring possible factors that impede interventions for improving infant and child nutrition

-a qualitative study on stakeholders' perception in Timor-Leste-

○清水一紀¹⁾、樋口倫代¹⁾、川口レオ¹⁾、江啓発¹⁾、Gadi Azeem Dad¹⁾、青山温子¹⁾

¹名古屋大学医学部医学系研究科

3-5 ケニア農村部における5歳未満児の慢性的な栄養不良に影響する家庭環境と関連する要因の検討

The influence of intra-household environment and other related factors on chronic malnutrition among children under 5 years old in rural Southeastern Kenya

○新杉知沙¹⁾、金子聡¹⁾²⁾、田中準一²⁾、Karama Mohamed³⁾、松村真樹¹⁾

¹長崎大学大学院国際健康開発研究科、²長崎大学熱帯医学研究所、³Kenya Medical Research Institute

一般演題「小児保健・栄養 II」

10:20～11:00

座長 水元 芳

(福岡女子大学)

3-6 ハイチ孤児院における食糧・栄養支援の企画

A nutrition project conducted in Haiti.

○片岡真由美、古賀順子、岩野仁香、中村由梨子、森田佳奈子、甲斐聡一朗、大類隼人
特定非営利活動法人 Future Code

3-7 太平洋地域の肥満ーパラオにおける肥満の現状と対策

Obesity in Pacific Region - Situation and Prevention of Obesity in Palau

○大屋勇人¹⁾、樋口倫代¹⁾、川口レオ¹⁾、上村真由¹⁾、王超辰¹⁾、青山温子¹⁾

¹名古屋大学医学部医学系研究科

3-8 栄養政策に関する国際的データベース (GINA) を活用した高齢者の栄養政策の指標の評価

Global Database on the Implementation of Nutrition Action from a viewpoint of nutrition for the elderly

○江頭亜沙美¹⁾、鹿嶋小緒里²⁾、村上玄樹²⁾、烏帽子田彰²⁾

¹広島大学医学部医学科、²広島大学大学院医歯薬保健学研究院公衆衛生学研究室

3-9 日本・韓国における若い女性の体格指数と食事摂取状況の比較検討

A comparative study of young women's diet in Korea and Japan

○水元芳¹⁾、高島由紀子¹⁾、金希京²⁾

¹⁾福岡女子大学人間環境学部、²⁾福岡女子大学国際文理学部

一般演題「災害・環境・その他」

11:00～12:00

座長 谷村 晋

(兵庫医科大学)

3-10 フィリピン共和国での台風災害亜急性期における受診者の背景と疾病構造

Back ground and disease structure of patients at subacute phase of typhoon disaster in Philippines

○夏川知輝¹⁾、甲斐達朗¹⁾、松下朋子²⁾、宮本純子³⁾、弘中陽子⁴⁾、二宮宣文⁵⁾

¹⁾大阪府済生会千里病院千里救命救急センター、²⁾東京大学大学院工学系研究科、³⁾神戸大学大学院保健学研究科、⁴⁾愛知医科大学看護学部、⁵⁾日本医科大学多摩永山病院

3-11 北タイにおける大気汚染対策の現状

Air Pollution in Northern Thailand

○谷村 晋

兵庫医科大学公衆衛生学講座

3-12 インドネシア首都圏における患者の医薬品選択行動と薬剤師の対応

Selection behavior of patients requesting medicines and pharmacists' management in Indonesian capital region

○木村暁¹⁾、中村安秀²⁾

¹⁾大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程、²⁾大阪大学大学院人間科学研究科

3-13 日中における医療広告の比較研究

Comparison of the healthcare organization advertisement between Japan and China

李 祜¹⁾、長瀬啓介²⁾

¹⁾金沢大学医学系研究科医科学専攻医療経営学、²⁾金沢大学附属病院経営企画部

3-14 太平洋島嶼地域における自殺の要因と対策

Possible factors of suicides in Pacific Islands and prevention programs

○水谷圭吾¹⁾、樋口倫代¹⁾、川口レオ¹⁾、Hilawe Esayas Haregot¹⁾、張燕¹⁾、青山温子¹⁾

¹⁾名古屋大学医学部医学系研究科

3-15 ネパールカスキ郡デタール村における安全な水の供給推進を中心とした生活改善活動

○上野理恵¹⁾、井村聡子²⁾、野村秀明³⁾、柳田潤一郎⁴⁾、黒川学⁵⁾、酒井ひろ子⁶⁾、小野一男⁷⁾

^{1)~4)}、⁷⁾神戸常盤大学、⁵⁾神戸市保健所、⁶⁾森ノ宮医療大学

3-16 Violence against Congolese health care workers by patients/patients' family

○Basilua Andre MUZEMBO¹⁾, Lukuke Hendrick MBUTSHU²⁾, Nlandu Roger NGATU¹⁾, and Narufumi SUGANUMA¹⁾

¹⁾ Division of Social Medicine, Department of Environmental Medicine, Kochi Medical School, Japan

²⁾ Faculty of Medicine, University of Lubumbashi, Lubumbashi, Democratic Republic of Congo

----メモ----